

日
整

はつらつ!



●目次

●柔整サロン「してあげる医療」から「求められる医療」へ	1
■輝ける未来への取り組み〈四国ブロック〉	7
私たち柔道整復師は全国各地で活躍しています	
●公開健康講座	13
群馬県 第35回関東学術大会群馬大会 東京都 第11回市民公開講座 大阪府 府民健康講座 鹿児島県 公益移行記念県民講演会	
●ボランティア・その他	16
北海道 (公社)北海道柔道整復師会附属北海道柔道整復専門学校平成25年度入学式 群馬県 第47回関口杯支部対抗柔道大会 東京都 第1回トリアージ講習会 千葉県 社会福祉協議会に車椅子贈呈 石川県 第26回(公社)石川県柔道整復師会会旗争奪少年柔道大会 三重県 第19回柔整師杯県下少年柔道大会 滋賀県 日台親善交流少年柔道大会 大阪府 わんぱく相撲大阪市大会に救護班で参加 わんぱく相撲の救護へ参加	
■学術シリーズ(第16回) 外反母趾のセルフケア	22
●本の紹介「目で見える筋肉トレーニングの解剖学」	24
●私の夢「私だからこそできること」	25
■平成25年度日整学術大会一覧	26
■表紙解説	26
■日整文芸	28
■編集後記	表Ⅲ

●Web Page 日整ホームページ <http://www.shadan-nissei.or.jp/>

トップページの最新情報、健康情報誌「日整はつらつ!」VOL.12
または「日整はつらつバックナンバー」から入り当ナンバー広報誌を
クリックしてご覧ください。QRコードもご利用ください。



「してあげる医療」から「求められる医療」へ

愛媛大学医学部附属病院総合診療サポートセンター

櫃本 真幸先生に聞く

聞き手 (社)愛媛県接骨師会会長

(社)愛媛県広報員

司 会 四国ブロック広報部長

浜野 士朗

井関 澄男

和家慎一郎

柔道整復師は骨折・脱臼・打撲・捻挫・挫傷と限られた業務範囲の中での施術であり、機能訓練指導員として介護分野に参入してはいるものの、医療現場でチーム医療の中では枠組みから少し外れているのではないかと。今回は愛媛県健康増進課長という保健行政の中で長年仕事をされ、現在は愛媛大学医学部附属病院総合診療サポートセンター センター長という臨床の現場で活躍されている櫃本真幸（ひつもとしんいち）先生に柔道整復師と柔道整復師会の今後のあり方、進むべき方向などを伺った。

浜野会長 本日は大変お忙しいところ私たちのためにお時間をいただきありがとうございます。

先生には愛媛県健康増進課長をされていたときから、接骨師会会員の研修会などに講演していただき、最近では2年前の12月、櫃本先生がパーソナリティをされています、FM 愛媛のラジオ番組に私たちが出演させてもらい、接骨師会そして柔道整復師の活動などの話を対談し放送していただきました。また、四国接骨学会の特別講演の講師や、県民公開セミナーの講演など大変お世話になっております。今回は、私たち柔道整復師会への今後の助言や、提言も含めてお話を伺いたくお邪魔しました。

和家部長 先月は先生がセンター長をされています愛媛大学医学部附属病院医療福祉支援センターが、設立10周年を迎えられ記念式典が開催されました。また先生が執筆された「生活を分断しない医療－医療に依存する時代から医療を生活資源として活用する時代へ－」

という本を出版されました。おめでとうございます。

櫃本先生 ありがとうございます。その節はおいでいただきありがとうございます。

和家部長 早速本を読ませていただきました。全国の国公立病院では3番目に医療福祉支援センターが設置されたとのことですが、まず設立の目的や、ご苦労などをお話いただけますか？

櫃本先生 本来なら病院に入院して患者さんを治してから、もう一度地域にお返しするというのが医療の役割でしたが、高齢化や疾病構造の変化などで完治しないまま、疾病や障害を残して退院しなければならない事例も多くなり、急性期病院でも、医療と福祉の連携のもと、生活に戻すための強力な支援が必要になりました。また、欧米との比較でも入院期間が長い我が国の特徴から、医療費抑制策の第一として入院日数を減らすことが求められ、我々のように支援センターが退院促進を図ることを主な目的として全国各地の医療

機関に設置されました。愛媛大学病院でも、支援センターができる前の平均在院日数は1ヶ月近くでしたが、今はほぼ2週間に短縮されました。確かに退院が促進されれば、病床の回転率も向上し、より有効に活用することが可能となり、経営的な効果にも繋がります。また、紹介率も以前は5割以下でしたが、今では8割から9割に達して、地域からの紹介患者さんを診るという、本来の大学病院の機能を果たせるようになりました。しかし、急性期病院の役割を終えたからといって、完治しないまま退院調整を進めることは、患者さんには早く退院させられた、つまり追い出されたと思う人も少なくありませんので、患者やご家族の安心や満足感の面で、良かったかどうかは理解されていない面もあります。しかしそのような役割の中で評価もされ、開設当初は3名体制であった当センターが、10年後には20名体制となりました。そして今年度4月からは更に機能強化が図られ、総合診療サポートセンターとして新たに生まれ変わることになりました。

入院前からサポートし、継続して退院支援まで行い、不安への対応や、より速やかに生活に戻すための「切らないサポート」を行うということで、スタッフも70名に大幅に拡大されました。病気の特異性や家族との人間関係や、経済的問題などさまざまで、スムーズに退院できない人もたくさんいます。退院支援の面でいわゆる困難事例に遭遇する中で痛感したのは、「つなぐ」というそもそもの姿勢の問題です。入院によって「生活が切れる」ので「入院で生活を切らない」ことが重要で、入院前から退院支援、さらに生活全体の支援という観点から、これまでの生活資源を切らずに返す、すみやかな入院を可能とするために、総合診療サポートセンターの設置に至ったわけです。

以前私は、在宅医療が進まないのは、地域のその受け皿が足りないからだと思っていましたが、それには大きな誤解がありました。

急性期医療は進歩したけれど、その医療に頼り過ぎたために、治らないもしくは障害が残るといった急増する課題への解決ができない状況への、急性期医療自体の課題も少なくない実情を目のあたりにする中で、急性期医療が変わらなければ、在宅医療は変わらないことに気付きました。今後は、急性期病院が在宅医療を理解し、日常から協働する姿勢が大切です。

私は愛媛県の保健行政分野に20年ほどおりましたが、「いかに病気にならないようにするか」がもっばらの活動でした。ところが医学部に戻り、保健福祉の調整にかかわるポジションにつくと、医療は「いかに病気を治すか」に懸命に取り組んでおり、一方、福祉の分野を見ると「いかに介護をするか」で手いっぱい状況でありました。従来から、保健医療福祉の連携は繰り返し強調されてきましたが、すべてゴールがバラバラで、ますます分断化されているようにも思えます。行政や医療福祉関係者の意識改革が必要です。

患者さんや家族のニーズを十分に掘り起し共有しないままに、治療を先行することが、問題を産んでいるように思います。手段であるべき治療が目的化し、保健や福祉・介護といった生活全体との連続性に欠けていることを、医療者も患者や家族も、振り返り改善すべき課題だと思います。これからの医療に期待することは「してあげる医療」より、地域資源とつながりながら「求められる医療」を重視し、生活の中で支えるといった意識を、常に持って取り組んでいかなければなりません。

和家部長 私の所は田舎なので、庭で花を育てたり、野菜を育てたりずっと畑仕事などがしたいと言われる人もいます。

檀本先生 まさにそれがニーズであって、その実現のために、地域でその人を支えることが医療にとっても大切ではないかと思います。

浜野会長 病気などが治った後でもいろいろ

な面で支援してあげることが大事ですね。

櫃本先生 そうですね、生活の中に医療がありその人の生活の中で支援していくことが大事ですね。そのために求められているのは、コミュニケーション力とネットワーク・マネジメント力だと思います。東洋医学というのはそもそも、生活の中で提供されるものでした。

柔道整復師の方々は施術だけで治すのではなく、生活の中で信頼される相談者として、患者さんの生活を十分把握した上で、地域で情報共有のできるネットワークを構築し活かしていただきたいと思います。一方西洋医学は病院など隔離された中で進歩してきました。その結果とはいえ、地域生活から遮断された高度医療へ、何もかも依存する生活に変わることを余儀なくされる課題を生みました。そのためにも東洋医学の力、皆さんの活躍に期待するんですね。

和家部長 先生は保健所の所長や県の健康増進課長など、保健行政と、そして今は臨床の現場に居られますが、接骨院や柔道整復師ということでどのようなイメージを持たれていますか？

櫃本先生 私も柔道をしていました。柔道を通じて、目の前で脱臼の整復をされているのを見たことがあります。まるでマジシャンのようでした。また一面で、東洋医学の中のPT・OT（理学療法士・作業療法士）というようなイメージを持っていました。また、マスコミなどで紹介されているように、故障したアスリートを治療・回復させるだけでなく、生活全般の支援を通じて、一流選手育成にも大きな力を発揮されていることに感銘を受けました。皆さん柔道整復師には歴史と伝統がありますからね。

今期待するのは、かかりつけ医、かかりつけ柔道整復師として、一時的ではない一生を通じて手当てし、住民や地域の見れる柔道整復師になってもらいたいと思います。「してあげる」でなく「その人の持っている力を引



【プロフィール】

ひつもと しん いち
櫃 本 真 幸

1954年 大阪市生まれ 山口県下関育ち
1979年 愛媛大学医学部卒業、同大学助手
愛媛県宇和島中央保健所
御荘保健所長
伊予保健所長
愛媛県庁保健福祉部健康増進課長を経て
2002年 愛媛大学医学部附属病院医療福祉支援センター副センター長就任
2006年 同 センター長
2013年 総合診療サポートセンター長
愛媛大学医学部准教授
労働衛生コンサルタント
長寿科学総合研究事業評価委員
国立長寿医療研究センター特別研究員
日本医師会介護保険委員会委員
医師（医学博士）

研究分野は公衆衛生

ヘルスプロモーションの推進
ケースメソッドによる人材育成
地域保健医療福祉連携システム
1992年日本公衆衛生学会奨励賞受賞
厚労省「健やか親子21」検討会委員
長寿医療研究「高齢者の退院支援標準化に関する研究」分担研究者
厚生労働省研究班「地方分権と保健衛生行政に関する調査研究」班長

FM 愛媛「櫃本真幸の care of life」のメインパーソナリティを務める。

（毎週土曜日 7：00～7：30）

き出してあげる」の姿勢で、エンパワーメント「内なる力を引き出す」ために、生活全体の理解者になってもらいたいと思います。そのためには、まず話をしっかり聞くことが大事だと思います。経過を診ながら適時、適切にアドバイスができること、相談者として継続してかわれること、そしてそれを可能とするために、周辺環境をマネジメントすることが大事だと思います。持っている力を引き出せるのは、行政や医療といった機関だけでは難しいと思います。生き方を支援できるのは、地域生活の中で医療や福祉を提供できる、身近な柔道整復師さんのような方が最も適切だと思います。

浜野会長 柔道整復師は機能訓練指導員として介護予防の分野にも力を入れています。

櫃本先生 介護予防対策が注目されていますが、「水際作戦」といいながらかえって「してあげる」受け皿やシステムへの依存を促すことになり、要介護者の増加や介護度を上げることにつながっているのではないかと懸念しています。デイケアやサービスを否定しているのではないのですが、たとえば高齢になって医療や多少の介護サービスを受けるようになっても、地域で生きがいを持って、社会に貢献できるような気持ちや実践を引き出せる生活支援が必要だと思います。

いくつになっても、農作業をしたり地域行事に参加したりできる場づくりや、そのような環境づくりへの支援が大事だと思います。介護予防に柔道整復師が積極的にかかわろうとするならば、日々の信頼関係を基盤に、コミュニケーション力を生かして、住民の持っている力を引き出すことのできる情報提供や地域づくりへのかかわりを、会としても推進いただければと期待しております。

和家部長 柔道整復師は「手当て」の治療をしています。運動器を扱うプロとして頭から足の先まで手で触って施術します。業務範囲



でない場合や症状によっては地元医療機関に紹介します。しかし、病名など業務範囲の問題もあります。

櫃本先生 法の壁は確かにありますが、しかし患者さんから求められたことに対して、最も信頼のおける相談者として、生活全般にわたる方向付けはできると思います。これは医療機関へ、これは私たち自らでとか、またそれぞれが生活習慣で改善すべきことを当事者に促す一方で、医療福祉資源の活用の仕方など、いろいろアドバイスができると思います。今の医療は専門指向に進み過ぎて、役割分担と言う割に「してあげるという」立ち位置になると、一部だけを診て全体を診ない傾向があると言わざるを得ません。東洋医学には、全体を診て、持っている力を引き出すことで、生活を支援することがそもそもの狙いにあると思います。

浜野会長 規制緩和で柔道整復師の養成校が100校を超え入学者が7,000名程になり、今年の国家試験合格率68.2%で合格者が4,400名余りと、数は激増していますが、我々の公益法人団体に入らず個人で行動する柔道整復師が多くなっています。

櫃本先生 医師会をはじめ同様の傾向が各職能団体に見られますね。これまでは、会に入

っていれば守られるといった安心感や仲間意識が根底にあったと思います。最近では会員のニーズも多様化し、何かをやろうとすると、目立ったりユニークなことをする人はブレーキやルールで締め付けられるというデメリットを意識して、あえて未加入を選択する傾向があるようです。今後は会に入れば守られるといった会員自身のメリットでなく、住民にとってのメリットを打ち出すこと、つまり地域貢献を意識することがキーだと思います。

そして県組織より地域に根付いた郡や市の支部会のメリットを重視することが大切です。「会に入っていないといけない」と思えるような地域活動や、他の職能との信頼関係ネットワークが会の資質を評価すると思います。分かりやすい目に見える地域活動は住民のためであり、会員の質を上げるのは地域ネットワークだと思います。会として地域づくりへの参画を推進することが肝要だと思います。

井関広報員 話は少しそれるのですが、医師不足などで受け皿がなく、たらい回しになり問題も多い救急医療についてはどう考えられていますか？

榎本先生 事故などは別にして、本来の救急医療は減少し、今後は高齢化に伴いほとんどが、あらかじめ予測できる救急を避けることが可能な患者だと思います。慢性疾患や高齢化による疾患などは、普段から相談できる医療者の支援を受けながら、日常対応の強化へ救急体制から力点を移行させていくべきだと思います。安心の裏側に潜む、悪くなるまで放っておいて、救急医療に依存する従来のシステムを見直す必要があります。

和家部長 私たち柔道整復師会の今後の助言や、提言も含めてお話しを伺いたいと思います。

榎本先生 今、柔道整復師に期待するのは、これからの地域の住民を支えるのに、かかりつけ医と同様、地域住民のかかりつけの相談者として大きな力があると思います。生活面

全体をフォローアップしながら、必要に応じて医療機関など専門機関を紹介したり、生活習慣の見直しを促すような方になってほしいと思います。先ほど話したように、これからは、「してあげる医療」から「求められる医療」という観点からの支援が大切だと思います。ですから皆さんのような国家資格を持った人、地域で信用を得ている人は、生活の中で施術しながらコミュニケーション力とネットワーク・マネジメント力を活かして、地域生活の中でどんな医療を受けたいかを把握し、アスリートなら記録を伸ばしたい、農家の方なら畑仕事がしたいといった、それぞれの生活の中での医療の活用について、支えることができます。治療は目的でなく手段であり、その人らしい生活を支える活動が大事ではないかと思います。

柔道整復師の歴史をもっと勉強して先輩の歴史を学ぶことも必要だと思います。また数が多くなれば職能団体は一見強くなるようにも思えますが、それぞれが目指すことや、各事業の目的などがバラバラではいけないと思います。「何を目指す会なのか」「どの方向を向いているか」、方向性をぶれさせずに、地域づくりというキーワードを外さないことが大切だと思います。会員の数が多くなればなるほど、質を上げることが大切です。それには目指す方向の共有化とそれを柱としたネットワークづくりが不可欠だと思います。また誇りの持てる会として、会内外へのメッセージの発信は重要ではないでしょうか？

キーワードは地域づくりだと思います。治すだけを目的にするのではなく、個々人とかかわりを通じて、地域環境を改善できる情報発信や行動ができる、「かかりつけ医療者」「かかりつけ柔道整復師」になってもらいたいと思います。メンタル面の相談も増えています。求められることに対して応えるためには、してあげるという姿勢を変えなければなりません。行政ばかりに頼らず、公衆衛生の向上に、柔道整復師がリーダーとなり情報発

信してもらいたいと期待しています。

和家部長 ところで毎日の診察と全国で講演されたりとお忙しい先生の健康づくりや体の管理方法はどうされていますか？

櫃本先生 私はご覧のとおりアレルギー（鼻炎）もありますし、体重のコントロールもなかなか難しいですね。健診は受けるようにしていますが、ゴルフの練習程度で定期的な運動もなかなかできていない状況ですが、妻の影響で最近自宅ストレッチをやっています。強いて言えば、仕事でのストレスをためないように、「やらされている仕事」は少ないと思います。仕事をやらされるというのではなく自らやらせてもらって、喜んでさせてもら

うというように考えています。また、多職種・多業種の方々と進んで話をするように心がけています。いろんな人と話をすることで、ストレスがかえって原動力となり、自分の力を引き出してもらっているように思います。まさに皆さんもその大切な方々です。

浜野会長 私たちの全国組織である日本柔道整復師会は平成23年に公益社団法人に移行しました。社団法人愛媛県接骨師会も今年11月までに公益社団法人に移行するように申請準備をしています。今後も社会に必要とされる団体となるよう努力します。個人の活動と団体の活動が大事だと思いますので今後とも先生のご支援ご指導をお願いします。

本日は大変ありがとうございました。



▲左から 和家部長、櫃本先生、浜野会長、井関広報員

輝ける未来への取り組み

《四国ブロック》

●● (公社)香川県接骨師会 ●●

本会では、日ごろの柔道整復業務はもちろんのこと、柔道整復師としての業務特性を活かした医療救護やスポーツ活動を通じて、地元地域に貢献できるよう石原誠会長以下、すべての会員が一丸となって邁進しています。さまざまな公益活動の中で、「第11回香川県接骨師会会長杯少年柔道大会」と「第67回香川丸亀国際ハーフマラソン大会救護ボランティア」の取り組みについて報告いたします。

第11回香川県接骨師会会長杯 少年柔道大会

日 時：平成25年1月20日(日) 9時45分～
場 所：香川県接骨会館 柔心館

今年の幕開けとなる柔心館鏡開き式および、第11回香川県接骨師会会長杯が開催された。

本会会員が指導にあたるチームを中心に、県下より13チームが参加し熱戦が展開された。

大会に先立ち武田雄児先生の祝詞のもと、参加者全員で鏡開き式を行った。仁科孝博

先生司会のもと、浪越琢視副会長が開会の辞を述べた後、まず石原誠会長より新年の挨拶があり、県柔連・父兄に対しお礼の挨拶が述べられた。「今年はヘビ年、昨年よりも一皮剥けて活躍の年にしてください」との激励の言葉をいただいた。

続いて松本澄夫県柔連会長より「今日の大会は今年初めての大会。今年の目標は決まりましたか？」との問いかけがあった。「目標を決めて一生懸命頑張ることが強くなるための一番の近道です」との言葉をいただいた。

続いて宮本欣貞県議より「今日こうして柔道



ができるのも道場の先生、お父さん、お母さん、お爺さん、お婆さん、みんなが支えてくれているからです。感謝することを忘れずに頑張ってください」と激励された。

松本裕司審判長から試合上の注意があった後、熱戦が展開された。

参加チーム（順不同）

- ・白鳥柔道スポーツ少年団・飯山柔道会
- ・庵治町スポーツ少年団柔道部・三木柔道スポーツ少年団
- ・丸亀柔道スポーツ少年団・宇多津体協柔道部
- ・善通寺柔道会・国分寺柔道スポーツ少年団
- ・山田柔道スポーツ少年団・坂出柔道協会
- ・栗林柔道スポーツ少年団・牟礼柔道スポーツ少年団
- ・観音寺西柔道スポーツ少年団

大会終了後、県柔連島本求理事長より講評をいただいた。「柔道をする目的、つまり強くなるだけが目的ではありません。勝って学ぶこと、負けて学ぶこと、そして柔道をすることで道徳を身につけて、それを後輩たちにも教えてあげられる小学生になってください」との言葉をいただいた。一人の怪我人もなく、新年の幕開けにふさわしい盛大な大会となった。

最後は、神高敏伸副会長の閉会の辞で大会は終了した。

第67回香川丸亀国際ハーフマラソン 大会救護ボランティア

総エントリー数 1 万 2,820 人、総出走者数 1 万 1,079 人といずれも過去最高記録を塗り替えた第67回香川丸亀国際ハーフマラソン大会は、2 月 3 日丸亀市金倉町の県立丸亀競技場発着（丸亀市⇄坂出市往復）の21.0975km で争われた。

北海道から沖縄まで全国43都道府県のほか、韓国からも一般選手が参加した。スタート時の気温は9.7℃。ほぼ風のない絶好のコンディションの中、国内外の一流選手がハイスピードのレースを展開。市民ランナーも沿道に詰め掛けた16万2,000人の声援に後押しされ、真冬の讃岐路を駆け抜けた。会場の一角では東日本大震災の復興を支援するチャリティー



イベントや、うどんや丸亀名物・骨付鳥などのブースが並ぶ「にぎやか村」もあり大会を盛り上げた。

ハーフ部門には初めて1万人の大会を超える1万4人が出場。尽誠高ウィンドオーケストラ部の演奏が流れる中、元気にスタートを切った。

ハーフ部門で最高齢の完走者となったのは、岡山県玉野市の土岐威さん（82）で2時間58分の記録で見事にゴール。丸亀ハーフの参加は3回目となり「コースがフラットで走りやすい。素晴らしい大会ですね」と好印象。4年連続4回目の参加となる岡山市の出場者は「一流選手と一緒に走れる大会はほかにないし、沿道の声援が温かく後押ししてくれて走りやすさが違う。自己ベストを更新できた」と笑顔で答えてくれた。

今年も、麓ボランティア担当理事率いる、本会救護ボランティアのブースには7時過ぎから、まず2回、3回と常連の選手が次々と並びはじめ、続いて口コミなどで初めての選手も並び、すぐに黒山の人だかりができた。毎年各支部より救護に駆けつけてくれる先生方だけではとても間に合わず、我われ広報部が受付の応援に回ってやっとコンディショニング、テーピング、





▲参加メンバー

スポーツ障害相談などの救護活動が軌道に乗るほどの忙しさだった。

本日は本会の顧問である参議院議員磯崎仁彦先生もハーフマラソンに出場されており、本会ブースに激励に駆け付けてくださった。

今年も、1万人のランナーのそれぞれ違ったドラマがあり、本会救護ボランティアの先生方の熱意が、素晴らしいドラマの一助を担ったものと確信している。

(広報員 福井勝美)

●● (社)愛媛県接骨師会 ●●

愛媛県の救護活動について

本会では、柔道部を中心にボランティア活動として主に柔道の大会を中心に強化合宿・国体や市民マラソン大会、テコンドー大会、レスリング、バレー大会などへの救護員およびトレーナーとして、年間約40～50回の事業の救護活動を行っている。特に(財)愛媛県柔道協会主催・共催・後援などの大会は年間を通して参加しており、対象者は、小学生から成人までいろいろな負傷者の応急処置を行っている。愛媛県では、平成21年度まで愛媛女子親善柔道国際大会が開催され、そのときにも救護員として活動を行い外国選手のテーピングなどの処置も行ってきた。

柔道の場合は、軽度な負傷から重度の負傷まであり、頭部外傷などの事例もあった。年代によっても負傷箇所が異なる傾向があり、小学生などは、軽度な負傷や、肩から落ちて受身が取れずに起こす鎖骨骨折や、腕をねじ上げられての上腕骨骨折などの重傷な事例もあった。中学・高校では、筋力が増加して絞めや関節技が入るために、靭帯損傷が多くなり関節技にて肘関節

内外側々副靭帯損傷、体重増加と無理な態勢からの技を掛けるために、肘関節脱臼、肩鎖関節脱臼、膝関節内外側々副靭帯損傷、頭部外傷などがある。成人は、筋挫傷、靭帯損傷の再発が多く見られる。

応急処置は、その負傷箇所に合わせて、整復・アイシング・テーピング・固定包帯などを施行しているが、時には救急車を要請するときもある。処置中には、受身の取り方や技の掛け方などの注意点をレクチャーして再受傷防止などを呼びかけている。

愛媛県では、平成29年度に国体が開催される予定であり、平成23年からは本会会員の柔道部より柔道競技のチームトレーナーとして2名が全日程帯同して救護員およびトレーナーとして参加活動している。

なお、ほかにも本会会員が個人的に依頼を受けて市内スポーツ大会などの救護員やトレーナーとして活動をしている。

今後も、柔道整復師として社会への貢献活動をするべきだと思っている。

(広報員 井関澄男)

●● (一社) 高知県柔道整復師会 ●●

高知龍馬マラソン救護活動

平成25年2月24日(日)に開催された「高知龍馬マラソン2013 (にいまるいちさん)」に、瀬戸島会長、小川副会長の陣頭指揮のもと、当会会員が、ボランティア参加(救護活動)をいたしました。

この大会は、「わざわざ高知で走ろう! 高知龍馬マラソン」をキャッチフレーズに開催されました。「龍馬が大きな志を持ち眺めた太平洋を望む道程のフルマラソン大会」であり、参加ランナーは、ひととき、龍馬の気分に浸ることができたのではないかと思います。高知ならではの自然豊かなコースを気分よく走り、春の訪れを感じつつゴールを目指されたことでしょう。

ランナーの皆さまやご家族・ご友人を含めてスタート地点(上町二丁目)、ゴール地点(春野競技場)は、競技者と応援者で大変な混雑を見せていました。大会結果は、6時間の制限時間内に春野運動公園に入ったランナーが、3,292人。完走率は94.7%でした。初代王者は、男子が香南市出身の城武雅選手(香川県)。女子が中田奈美選手(高知FRC)。参加されたランナーの皆さま、大会運営関係者の皆さま、大変お疲れさまでした。ご苦労さまでした。当会から参加した会員を以下に掲載します。

中山泰雄、武田卓伸、西本仁、中村裕洋、山田幸彦、大黒一生、浦田憲士郎、吉本大輔、作真滋、上原栄導(以上10名:敬称略)。

活動報告の前に、ボランティアとは何でしょうか。ボランティア(英:volunteer)とは、ボランティア活動に携わる人のことであり、今日では、

自発(自主)性
無償(無給)性
利他(社会、公共、公益)性
先駆(先見、創造、開拓)性

以上の4つの活動を「ボランティア活動の柱」とする場合が一般的であるようです。語源はラテン語のVolo(ウォロ、英語のwillの語源)。志願者。語の原義は「志願兵」「徴集兵」が反

語)。歴史的には騎士団や十字軍などにまで遡ることができます。ボランティア活動の原則は、一般に上記の自発性、無償性、利他性、先駆性の4つです。1980年代以降、「無償」の範囲を柔軟に考え、実費の弁済や一定の謝礼を受ける「有償」ボランティアが受け入れられているのも現状。

先駆性、補完性という概念は、ボランティア活動が既存の社会システム、行政システムに存在しない機能を創造して補完するという役割を担うことから発生したものでもあります。

一方で、ボランティア活動が、参加個人の自己実現性を持つことも知られています。また、一方で、日本独自の意味合いも知られているところです。動員・勧誘・強制を受けての参加は、本人の純粋な自由意志に基づかないため、厳密にはボランティアとは言えないが、日本では奉仕活動の同義語、無償労働の意でボランティアという語を用いる場合も多いです。

さて、龍馬マラソン大会への参加結果は、大盛況でありました。たくさんの参加ランナーの方々に、ご利用いただきました。皆さま、マラソン疾走後の疲労を抱えて来所され、大変な混雑を見せていました。30分以上待つて施術を受けた方も多く、施術担当者は、疲労困憊(表現が過ぎるかも?)だったことをお伝えします。

事前に作成しておいた問診票に各自記入していただき、既往症・負傷時間・受傷状況を把握して施術を行いました。また施術後には負傷部位の対処法や冷却材・マッサージローションをお渡しし、ゴールするだけではなく最後までおもてなしができる大会にと務めた次第です。

当日、来所された方へとお渡しした資料(紙面)を掲載します。

「接骨院のかかり方(ご案内・アピール資料)」
「高知県柔道整復師会・会員施術所一覧」「問診票」「担当者一覧」の4種。

始まる前は、誰も来ないのではないかと思います心配しましたが、作った問診票100名分もあっという間になくなり、後は問診票を使わずに聞き取り、施術をしました。問診票を用いなかった人数が151名に達しておりました。カウント

どんな時に 接骨院・整骨院にかかるの？

**健康保険が
使えます**

原因を
お伝え下さい

◆ 接骨院・整骨院で骨折・脱臼・打撲・捻挫・挫傷(歯はなれ)と判断されたとき
◆ 骨・筋肉・関節のケガや痛みで、原因がはっきりしているとき

すべった・転んだ・ぶつかった

- 日常生活やスポーツで、けついたり、ぶつかったり、転んだり行ったりして、ケガをしたとき

何度でも・何回も・くり返し

- 日常生活やスポーツで、同じ動作のくり返しを間違った動作によって、痛みが出る場合
- 子供の遊びが原因で、首の骨が折れたり、首の骨が折れたりしている人は、わずかな動作で痛み(ケガ)を繰り返すことがあります

健康保険の適用

- 整形外科前症、五十肩、ヘルニア、肩こりなどがあつた場合、その病名の治療はできませんが、その原因で起きたケガや痛みは治療します。
- 骨折・脱臼・打撲・捻挫・挫傷を治療します(骨折・脱臼は初回応急処置後、病院治療には医師の同意が必要です)。
- 運動後の筋肉や関節などの痛みを治療します(原因をお伝え下さい)。

(社)高知県柔道整復師会 高知県接骨・整骨士 日々努力しております

(社)高知県柔道整復師会

問診票 (お構いのない範囲でご記入下さい)

高知県高マラソン2013(11月24日) 平成25年2月24日(日)

氏名 _____ 男・女 大・中・小 年生() 才

住所 _____

担当者名: _____

症状のある箇所を
○で囲んで下さい。

既往症などがあれば、お書き下さい。

受傷日時 (いつからですか?)
平成 年 月 日 午前・午後 時 分頃

負傷した時の状況について (具体的に)

どこを? (腰・膝・左肘・右ふくろ等) _____ どうしましたか? (捻じ・打った・挟まれた等)

(※担当者記入欄) 傷病部位および対処法

部位	対処法
①	
②	
③	

担当: _____

社団法人 高知県柔道整復師会

土居 接骨院	三宅 接骨院	武田 接骨院	本田 接骨院	松川 接骨院
井上 接骨院	石井 接骨院	武田 接骨院	松下 接骨院	津元 接骨院
大西 接骨院	あさくら 接骨院	武市 接骨院	なご 接骨院	村岡 接骨院
岡本 接骨院	大熊 接骨院	牧 接骨院	もとよし 接骨院	茂木 接骨院
あさ 接骨院	うらた 接骨院	竹村 接骨院	風の谷 接骨院	柳瀬 接骨院
小野川 接骨院	大黒 接骨院	瀬戸 接骨院	柳川 接骨院	はやま 接骨院
さのせ 接骨院	前野 接骨院	谷 接骨院	やまだ 接骨院	山崎 接骨院
小花 接骨院	前野 接骨院	郡 接骨院	はるの 接骨院	山中 接骨院
佐藤 接骨院	大野 接骨院	てらお 接骨院	吉川 接骨院	山中 接骨院
かわい 接骨院	岡田 接骨院	ひまわり 接骨院	吉田 接骨院	米女 接骨院
永野 接骨院	おかた 接骨院	豊 接骨院	よしと 接骨院	廣島 接骨院
なかし 接骨院	おが 接骨院	中内 接骨院	あたご 接骨院	かみお 接骨院
西崎 接骨院	川久 接骨院	中川 接骨院	市原 接骨院	川瀬 接骨院
橋本 接骨院	川崎 接骨院	中村 接骨院	西田 接骨院	さだ 接骨院
栗村 接骨院	川崎 接骨院	中山 接骨院	小川 接骨院	長岡 接骨院
弘山 接骨院	久 接骨院	西川 接骨院	栗田 接骨院	吉岡 接骨院
PLUS+ 接骨院	久 接骨院	に 接骨院	野田 接骨院	森岡 接骨院
森 接骨院	くすの 接骨院	西村 接骨院	角田 接骨院	はつと 接骨院
森口 接骨院	国澤 接骨院	はしづめ 接骨院	田 接骨院	ゆみ 接骨院
森本 接骨院	徳谷 接骨院	橋本 接骨院	くにさ 接骨院	吉田 接骨院
山崎 接骨院	さかもと 接骨院	十津 接骨院	クニサ 接骨院	橋本 接骨院
山崎 接骨院	太田 接骨院	渡口 接骨院	古味 接骨院	上野 接骨院
池田 接骨院	澤田 接骨院	相 接骨院	高橋 接骨院	北本 接骨院
橋本 接骨院	小豆 接骨院	高砂 接骨院	高橋 接骨院	武内 接骨院
和 接骨院	すま 接骨院	弘山 接骨院	武田 接骨院	細木 接骨院
いちかわ 接骨院	藤 接骨院	深田 接骨院	田村 接骨院	森 接骨院
市原 接骨院	タカオ 接骨院	藤井 接骨院	にしと 接骨院	吉田 接骨院
井上 接骨院	かみた 接骨院	藤 接骨院	野中 接骨院	
		山中 接骨院	濱口 接骨院	

施 術 担 当 者

高知マラソン2013 平成25年2月24日

なかやま やすお
中山 泰雄

中山 接骨院
高知市横合橋町10-5
TEL 088-844-6666

たけだ たくしん
武田 卓伸

武田 接骨院
高知市横合橋町3-1-23
TEL 088-831-6664

にしと ひとし
西本 仁

にしと 接骨院
高知市大田町12-1
TEL 088-42-0003

なかむら やすひろ
中村 裕洋

中村 接骨院
高知市西原ノ原34-1
TEL 088-843-5187

やまだ ゆきひこ
山田 幸彦

やまだ 接骨院
高知市横合橋町2-8-2
TEL 088-824-0750

おおぐら いっせい
大黒 一生

大黒 接骨院
高知市山ノ内町220-3
TEL 088-823-0502

うらた けんしろう
浦田 憲士郎

うらた 接骨院
高知市中本町4-3
TEL 088-871-6533

よしと だいすけ
吉本 大輔

よしと 接骨院
高知市宝永町2番20号
TEL 088-884-3355

さく しんじ
作 真滋

太田 接骨院
高知市横内456
TEL 088-849-2577

うえはら ひでみち
上原 栄導

大熊 接骨院
高知市若草町17-13
TEL 088-840-3589

社団法人 高知県柔道整復師会

できなかった来所者数も20~30名おり、また隣で施術をしていた団体にも20名以上助けていただきました。先頭が到着後11時30分頃から午後4時頃まで約4時間30分の間におよそ300名のランナーを施術することができました。来所者

数を100名程度に想定していたため、資料・資料の数が不足したのは、残念でありました。施術部位は、100名分の記録だけですが、足底部(4名)、足関節(9名)、下腿部(93名)、大腿部(89名)、股関節部(11名)、殿



▲参加スタッフ

部（10名）、腰背部（29名）、頸部（10名）、肩関節部（10名）、肘関節部（1名）。という記録になっております。来所者一人で複数部位の記録があるため、このような数になりました。当日は、症状のある部位について手技を施し、一人当たり5分程度の手掌・母指を用いた軽擦法が主でありました。そのほか、気付いた事項として、

- ①施術台（簡易ベッド）を5台用意しましたが、次回以降、来所者数を予測し必要な担当者数（当会会員参加者）を導き出すことも重要です。与えられた施術スペースとの兼ね合いもあり、今後の検討課題です。
- ②施術の時間・内容を、前もって決定しておくべきではないか。（施術の時間制限を5分に決めるとか、手技と共に、ある程度施術を定量化すべきではないか）などを挙げておきます。

今後の活動として、「柔道整復師のアピールになるから、積極的に取り組もう」との意見も多いところです。これからも県内外で開かれる各種スポーツ大会の救護活動や災害時の救護・医療活動に率先して参加していきたいと思えます。本会では急な依頼があっても即対応できるように準備をしていきたい所存であります。

ねんりんピック主催者側から要請を受けているとも聞き及んでおります。ねんりんピック（全国健康福祉祭）ですが、第26回全国健康福祉祭高知大会「ねんりんピックよさこい高知2013」として、平成25年10月26日（土）～10月29日（火）の日程で開催される予定。ふれあいと元気ある長寿社会を目的とした健康・福祉・生きがいがづくりの祭典です。会員の皆さま方に、ご協力ならびにボランティア活動への積極的な参加を呼びかけて、報告の締めくくりとさせていただきます。

今回の高知龍馬マラソン大会には、尾崎正直高知県知事並びに桑名龍吾高知県議会議員のお力添えでボランティア活動に参加させていただきました。紙上を借りまして厚くお礼申し上げます。

最後に、前日の設置準備から当日準備と活動後の後片付けに至るまで「うめばら薬品商会」様には、大変なお世話になりました。マンパワー（運搬などの作業）、施術ベッドや資材（テーピング・湿布剤）のご提供をしていただきました。この場をお借りいたしまして梅原茂穂社長に厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。



（広報員 西本 仁）

私たち柔道整復師は 全国各地で活躍しています。

健康づくり(公開健康講座)、スポーツボランティア
防災・救護・介護など

公開健康講座

群馬県

第35回関東学術大会群馬大会

『国民医療の一助 柔道整復師』

3月10日(日)、公益社団法人日本柔道整復師会第35回関東学術大会群馬大会を本会の主管、群馬県・高崎市・日本赤十字社群馬県支部・(株)上毛新聞社・群馬テレビ(株)の後援を受け、大会スローガン「国民医療の一助 柔道整復師」を掲げ開催した。会場となった高崎市の「群馬音楽センター」には、午前9時から一般の参加者を併せて1,526人が集い、医療法人社団善衆会 善衆会病院 理事長・院長の木村雅史先生による特別講演と関東7県から選ばれた会員による研究発表を聴講した。

特別講演 (一般公開講座)

「膝と腰の痛みーその病態と治療ー」
医療法人社団善衆会 善衆会病院
理事長・院長

木村雅史先生



▲講演する木村先生

木村先生は、「膝と腰の疾患、およびスポーツ外傷・障害」について診断から最先端の治療法まで、動画を交えて会員だけでなく一般の聴講者にも分かりやすく解説をされた。

講演終了後、会場からの質問に丁寧に回答され、一般の方からの質問に際しては、実演を交えて回答していただいた。



▲7県の代表の皆さん

研究発表

7県の代表 群馬に集う

会員による研究発表では、千葉、山梨、神奈川、栃木、茨城、埼玉、群馬の7県の代表がそれぞれ日頃の研究成果を発表。本県代表の家中周作会員は「第5中足骨基部骨折テーピング固定法」と題してテーピングによる固定の有用性と問題点を説明した。

パネル掲示

関東学術大会で、初の試み。「かけこみ110番の家運動への協力」「ぐんせつ愛の募金箱」「日赤の救護訓練参加」「中越沖地震・東日本大震災の日赤救護活動に随行」「県接骨師会の刊行

物」など、県接骨師会の公益活動を紹介するパネル掲示は、来場した他県の会員や一般の方々の関心を引いた。

「不易流行」に決意新た

鶴谷県医師会長の祝辞に萩原日整会長が深謝

萩原正日本柔道整復師会会長が祝賀会に寄せたメッセージを工藤鉄男副会長が代読。

萩原会長はメッセージの中で、「群馬県医師会鶴谷嘉武会長が、今学術大会のためにお寄せくださいました祝辞の中で『7年前に群馬県で開催された第28回関東柔道整復学会の学会誌を読み返し、日進月歩の医療界でも、我々に与えられた役割と果たすべきものは、何年経っても不易流行であると確信された』と述べられています。我々の業務にご理解を示してくださり、『術の向上と人格の研鑽に務められ、地域住民のニーズに应运ってきたと推測される』といった、ありがたい寄稿をいただきました。私たちは国民の健康保持・増進の役割を担う重責を自覚し、大会テーマである「国民医療の一助 柔道整復師」に邁進しなければならないと、決意を新たにした次第であります」と述べられた。

(広報員 永井 毅)

東京都

第11回市民公開講座

平成25年2月17日(日)、東京都柔道接骨師会館3階研修ホールにおいて、「第11回市民公開講座」を約100人の方々にご来場いただき、盛大に開催いたしました。

この事業は本会が公益法人として、地域の皆さまの健康・福祉増進に寄与することを目的として開催しているものです。今回は『十八歳か



▲講演する町亞聖氏



らの十年介護』と題し、講師に元日本テレビアナウンサーで現在はフリーアナウンサーとしてご活躍中の町亞聖（まち あせい）氏をお迎えいたしました。

講演では、ご両親に対するご自身の介護経験から「介護をとoshi私たち家族に素晴らしい贈り物をくれた。失ったものもあったが、私たちに起きた数々の出来事が、思慮深さや他者への思いやり、そして年齢には不相応なほどの寛容さを与えてくれた」また「母はうまく会話はできなくなったが、言葉では語りきれない大切なことを私たちに伝えようとしている。身をもって生きることの大切さ、そして当たり前であることの素晴らしさを教えようとしているのだ」と、決して楽とは言えない介護環境の中でも常に前向きにご自身は過ごされたことを、『介護と医療の伝え手』として参加者に語り掛けられました。また、父親の反対を押し切り、墓石に母親の口癖だった「感謝だわ!」という言葉が刻まれているエピソードもご披露いただきました。

介護を通じて気付かされた親子の愛情、そしてお互いの感謝の気持ち。また「介護には終わりがある」という言葉のとおり、介護者あるいは被介護者が最期を迎えるにあたっての心境や、その後の生活変化などは誰にも起こり得ることで、決して他人事ではないと改めて考えさせられ、参加者も大変有意義な時間を過ごされたことと思います。

また講演の総評として工藤会長より、地域支援事業において柔道整復師が取り組んで来た介護予防のお話があり、参加者に広く認知していただくことができました。都柔接では、今後も「公益活動」として、東京都民に更なる充実した市民公開講座を開催できるように準備を進めて参ります。

(広報員 新井 宏)

大阪府

府民健康講座

5月11日(土)、府民健康づくり講座が午後3時から大阪柔整会館5階大ホールにて行われた。

本講座は大阪府民に向け開放している講座であり年4回行われる。

平成25年度第1回目の講座は「普通救命救急」と題し行われ、大阪市消防局西消防署より警防担当救急隊塩田兼也隊員ほか、6名の講師をお招きし約30名の参加者のもと開催された。最初にビデオ(映像)視聴し救命救急の基礎を学び、続いて2班に分かれジミー君(人形)を使用して実技練習を行った。

実技のポイントとしては

1. 肩を叩いて「分かりますか?分かりますか?」と声をかける。
2. 「人が倒れてます〜!」と周りの人に知らせる。(オーバーアクションで)
3. 「あなたは、救急車を呼んでください!」「あなたはAEDを持ってきてください」と指示する。(あなた、と指定しないと誰かがやるだろうと思ってしまう可能性がある)
4. 通常の呼吸をしていなければ、傷病者のアゴに手を当て、気道確保。人工呼吸と胸骨圧迫を(1分間で100回のペースで30回)これを繰り返し行う。
5. 心肺蘇生の途中でも、AEDがきたら急いで準備する。(電源を入れるとAEDが全て指示してくれるのでそれに従う)

講師の先生のお話しによると通報から救急車が来るまで平均7分。心臓停止から3分経過すると、生存率が50%になってしまうとのこと。



▲胸骨圧迫とAED準備

つまり、もし倒れている人を見つけたら勇気を持って素早く行動を行うことが大切であると説明された。

終了間際には質の高い質問があり、内容の濃い実のある講義であった。



▲人工呼吸の実技練習

(広報員 山田 豊)

鹿児島県

公益移行記念県民講演会 宮本和知氏(元巨人軍投手)による講演

平成25年4月28日(日)午後1時から、鹿児島県市町村自治会館4階大ホールにおいて、元巨人軍投手の宮本和知氏(現スポーツキャスター)による講演が開催された。

宮本氏は、日本テレビの「ズームインサタデー(土曜・AM5:59~AM8:00)」にレギュラー出演されている。巧みな語り口とユーモアがあり誰からも親しまれている。特に野球選手のインタビューでは、その人柄を良く引き出している。

今回は、地元のFM鹿児島のアナウンサー「ありまゆきさん」とトークをしながらの講演だった。テーマは、「野球から学んだ人生観~夢・希望・メンタルの重要性~」で、選手時代の監督、王監督、藤田監督、長嶋監督それぞれの思い出や、エピソードを面白おかしく話していただいた。また、現在では自身の野球チームでの指導方法である、夢や希望を持たせるためにメンタル面の強化が欠かせないと力説する。その方法とは、子供の個性を見抜き、ダメなところを指摘してその後にその子の良いところを褒める。そうすると子供は、褒められたことが頭に残り目を輝かせて練習に取り組んでくれる。逆の場合は、叱られたことしか頭に残らず自分は



▲宮本講師

ダメだと思い込んでしまい、個性を潰してしまう。そのことにより、叱りながら褒めることによりメンタル面も強くしていくことに繋がっていくと話された。

会場には300人余りの聴講者がおり、中でも



▲宮本講師を囲んで

高校の野球部や巨人軍の熱烈なファンが来場して、トーク後の写真撮影が大盛況であった。

最後に現在、体罰問題が取り沙汰されているが宮本氏のような指導をしていれば、体罰は少なからず減少するのではなかろうかと考えさせられる有意義な講演会であった。

(広報員 福永郁雄)

●— ボランティア・その他 —●

北海道

(公社) 北海道柔道整復師会附属 北海道柔道整復専門学校 平成25年度入学式

平成25年4月7日(日)、暖かな日差しの中、午後1時から北整会館4階大講堂において関係者が見守る中、昼間部30名、夜間部32名の入学式が挙行されました。長谷川源教務部長の開式の辞、国歌斉唱の後、昼間部担任西巻英男先生と夜間部担任野崎享先生より入学者の名前が読み上げられ、入学が許可されました。

近藤浩校長は式辞の中で「人が持つ自然治癒力を高めるお手伝いをするための知識を身に付けるため、健康に留意し休まずに授業に出席し、3年後には一緒に合格の喜びを共有しましょう」と述べられ挨拶とされました。

萩原正和校主は「この附属校は、これから北海道の柔道整復師会を担っていく柔道整復師を育てる学校です。授業を通じて礼節も学び、卒業後は共に地域の部分医療に貢献していくため、担任や仲間と助け合いながら国家試験合格へ向け邁進してください」と述べられ祝辞とされました。

続いて笠井正晴北海道鍼灸専門学校理事長と、五十嵐一議同総会会長よりご祝辞をいただいた後祝電披露が行われました。新入生による宣言が昼間部伊藤瞳、夜間部磯貝弥史代表より述べられた後、西巻英男教務主任より教職員が、佐々木辰雄先生よりご来賓、北整役員が紹介され、最後に在校生との対面式が行われました。終わりに閉式の辞が長谷川源教務部長より述べられ、式は終了しました。



▲新入生による宣言

(広報員 錦川正八)

群馬県

第47回関口杯支部対抗柔道大会 伝統の大会 新たな試み

先鋒、次鋒に小中学生

第47回関口杯支部対抗柔道大会（群馬県柔道連盟並びに関口孝五郎先生顕徳碑・関口林五郎先生胸像保存会主催、群馬県接骨師会後援）が4月14日（日）、前橋市の県総合スポーツセンター「ぐんま武道館」で開催された。



大会は県柔連の12支部をA、B、Cの3ブロック（各ブロック4チーム）に分けてリーグ戦を実施。今年は、これまで成人のみで編成していたチームを、先鋒は小学生、次鋒を中学生が務め、中堅、副将、大将を高校生以上、一般の選手でチーム編成をすることに変更。小学生は女子選手も出場できる。長い歴史を刻む県内最高峰の大会は、新たな歴史を刻み始めた。群馬柔道の父と慕われた関口孝五郎翁は、通算26年の長きにわたり群馬県接骨師会の初代・3代・5代の会長を務めた。

（広報員 永井 毅）

東京都

第1回トリアージ講習会

平成25年3月10日（日）、（公社）東京都柔道接骨師会会館3階研修ホールにおいて「第1回トリアージ講習会」を、約70名の会員にご参加いただき開催いたしました。

この事業は、本会が公益法人として大災害などに備えて地域の皆さまの安全確保に寄与するためのもので、今回は柔道



▲講演する太田先生

整復師の災害基準化教育として、講師に東京医科大学救急医学教授 太田祥一先生、救急救命士2名をお迎えしてトリアージの実技を中心にご講義いただきました。

災害時の医療とは、指揮命令系統・装備・情報伝達・評価・トリアージ・治療・搬送のことを言い、トリアージとは、限られた人物・物的資源の状況下で、最大多数の傷病者に最善の治療を実施するため傷病者の治療と搬送に優先順位をつけることを意味します。

実技の前半は参加者を10班に分け、1次トリアージ（START法）を中心に、模擬傷病者を相手に気道・呼吸・循環・意識の評価と、その傷病者の治療と搬送に優先順位をつけるため、緑・黄・赤・黒のタグにふり分けする練習を繰り返し行いました。後半はトリアージ・タッグの書き方・2次トリアージ（PAT法）外傷初期対応の基本を講義していただきました。分かりやすい実技中心の講義内容に参加者全員、大変有意義な時間を過ごすことができました。

今後も、我われ公益社団の柔道整復師は徹底



▲トリアージ実技

した訓練を行い、いつ起こるか分からない、決して他人事ではない大災害に常に備えていくことが大切だと思いました。未曾有の東日本大震災から早2年が経過いたしますが、いまだに被災地の復興が進まない中、我われ柔道整復師がそれぞれの地域で、より一層貢献し、勇気ある行動を起こすことが、東京都民に対する本来の公益活動の根源だと思いました。

(広報員 新井 宏)

千葉県

社会福祉協議会に車椅子贈呈

本会柏・我孫子支部では市民の健康・福祉への貢献を考え、当時の東葛支部（柏市・我孫子市・沼南町）役員が中心となって模索、行政などと折衝を重ねた結果、社会福祉協議会に車椅子を贈呈することに決定し、平成7年度から続けている。

18回になる昨年度も柏市に2台、我孫子市に1台を贈る贈呈式（＝写真）を、平成24年12月8日（土）三井ガーデンホテル柏において、衆議院議員、県議会議員、柏市・我孫子市の各市長、各社会福祉協議会会長、柏市医師会会長・副会



長・監事、芳賀筑波大学名誉教授、モラロジー研究所活動推進部長、本会岡本会長を来賓に招き挙行了した。

(広報員 渡辺 勇)

石川県

第26回（公社）石川県柔道整復師会 会旗争奪少年柔道大会

窪田柔道倶楽部9年ぶり3回目の優勝

標記の大会が5月12日（日）、白山市啓武館で開催された。団体、個人、男女合わせて25チーム、355名の選手が参加し、満員の観客席や開催関係者など1,400人以上の熱気で会場は大いに盛り上がった。嶋谷清副会長の開会宣言の後、木山時雨会長の挨拶では『昨年のロンドンオリ



ンピックで優勝した松本薫選手もこの大会に出場し、そのことがついこの前に思い出されます。また、先週行われたドイツカデ国際大会では糸田晴乃選手が優勝しました。皆さんも大先輩に続けるように、そして10月に東京の講道館で行われる全国大会出場をかけて日頃の鍛錬の成果を発揮して、元気に頑張ってください』と挨拶し、続いて作野広昭白山市長代理で井田正一白山市教育委員会教育部長と田中博人県議会議員よりお祝いと励ましの言葉をいただいた。また来賓には竹田伸弘白山市議会議員、埜谷勉白山市柔道協会長、湊眞佐夫白山市柔道協会顧問にもご臨席いただいた。

選手宣誓は津幡町少年柔道教室岩見倅汰選手が“指導者の方々や柔道に打ち込める環境への感謝と、本大会での決意”を宣誓した。

午前中に行われた団体戦では、窪田柔道倶楽部と内灘町少年柔道教室が決勝戦へ。接戦の末、窪田柔道倶楽部が9年ぶり3回目の優勝を果たし、10月の日整全国少年柔道大会への出場権を



▲宣誓する岩見選手

手中に収めた。午後からは各学年男女別個人戦があり各試合会場ではスタンドからの熱い声援と熱戦が続いた。

柔道を通じ心身の健全な育成と少年柔道の振興を目指すこの大会のために、県柔道連盟、中学校の柔道部、審判団、実行委員の総勢130名のスタッフが朝早くから準備に奔走して、大会を盛り上げてくれた。本年度から公益社団法人となり、これからは少年柔道の振興のためより良い大会にしたいと関係者一同願っている。大いに盛り上がった本大会は大徳勇副会長が閉会の辞を述べ締めくくった。

(広報員 佐藤裕之)

三重県

第19回柔整師杯県下少年柔道大会

平成25年4月28日(日)三重県伊勢サンアリーナにおいて、本会主催の標記大会が開催され、県内41の道場・柔道教室より307名が参加し小学4・5・6年生男女別による個人戦6部門で優勝を目指しました。

開会式前30分にわたり、昨年10月開催された『第21回日整全国少年柔道大会』で三重県チームベスト8、敢闘賞の模様、更に『第2回日整

全国少年柔道形競技会』で第三位と大健闘した模様を場内大画面スクリーンで報告しました。

橋本誠柔道部長開会の辞、伊藤和夫会長挨拶、ご来賓の中川正美三重県議会議員挨拶後、6年生の山口隆乃選手(粥見道場)・山本実希選手(伊勢柔道少年団)の選手宣誓後試合が開始されました。試合では、随所に見事な一本勝ちが見られました。

また、当日試合前の練習および試合中のケガ人も数名発生しましたが、本会の救護班において速やかな応急処置がなされ選手・保護者より感謝されていました。

各部門決勝戦・全国大会選考試合終了後、(取)浦上茜選手、(受)徳和麟太郎選手(ともに三重武道館)による形演武(投の形)が披露されました。

各部門上位4名は、7月21日(日)愛知県で開催される『柔整師杯第10回東海少年柔道選手権大会』(個人戦)へ出場します。

また10月14日(月・祝)講道館で開催される『第22回日整全国少年柔道大会』(団体戦)には4年生=筒井穰亮君(松阪市武道館)、5年生=新井総馬君(久居柔道教室)、加藤公央君(かわごえ柔塾)、6年生=山口隆乃君(粥見道場)、三浦啓瑚君(さざれ道場)の5名が三重県チームとして出場します。



(広報員 伊藤昌夫)

滋賀県

日台親善交流少年柔道大会

平成25年3月23日(土)～25日(月)の3日間の日程で、本会主催によりまず標記大会を台湾・台中市の台中市立后里(こうり)小学校において開催いたしました。



▲后里小学校柔道場にて

この大会は、本会の国際交流事業として、次代を担う子どもたちが日頃の柔道の練習の成果を試すとともに異国の文化に触れながら友情を育み親睦を深めることを目的として、平成元年から隔年に開催しており、今回で12回を数えます。前回までは韓国を訪問し韓国の子どもたちとの親善交流柔道大会を開催していましたが、近年の日韓関係を含め諸般の事情により、今回は本会の顧問でもあります虎姫診療所所長・廣田光前先生のご尽力により、台湾の子どもたちとの親善交流柔道大会が初めて実現いたしました。

この親善交流少年柔道大会には、本会の中江利信会長を団長とし、県内の各道場から小学生、中学生の選手21名（男子17名、女子4名）と訪台団役員・審判員11名、保護者13名の総勢45名からなる訪問団を結成し23日、関西空港から台湾に向け出発しました。

台北に到着後、2時間半をかけ宿泊先の台中市のホテル通豪大飯店へと向かい現地では台湾名物、夜市を満喫し翌日の親善試合に備えました。

訪問先の后里小学校では、校長先生をはじめ台中市の関係者の方々、また多くの生徒たちが大変熱烈な歓迎をしていただき、合同練習後の親善交流試合では、台湾でも上位を争う強豪校の後里小・中学校の生徒たちと白熱した試合を繰り広げました。個人戦の対戦成績は15勝14敗7分けと互角の試合内容でした。試合終了後に



▲后里小学校での歓迎会

開催された交歓会では、選手たちは緊張もほぐれお互いの健闘を称えあい、記念撮影やお土産交換と、言葉は十分に通じなくとも互いの心が通じ合えるそんな心地よささえ感じさせられた交流試合でした。

到着初日に台中科学博物館、最終日には故宮博物館に立ち寄り館内でも大変有名な青銅器や翡翠の彫刻などを見学し、台湾の素晴らしい歴史にも触れ台北を後にしました。

この訪台事業は3日間という短い日程でしたが合同練習や親善試合また、サイクリングを通じた交流や交歓会など子供たちにとってはこの台湾での交流は、一生忘れることのない素晴らしい思い出になったことと思います。また今回の旅での貴重な経験を今後の柔道人生に活かしていただきたいと思います。

今回の訪問では柔道を通じてお互いの文化や伝統に接することができ、また、日台両国の親善も図られた大変有意義で大きな成果が得られ

た親善柔道大会でした。今後もこの事業が次代を担う子供たちの交流や親善の場となるよう大切に受け継いでまいりたいと思います。

(広報員 岡田博之)

大阪府

ちびっこ力士1,100人が熱戦 わんぱく相撲大阪市大会に 救護班で参加

5月12日(日)午前9時、「第32回大阪市長杯 わんぱく相撲大阪市大会」が浪速区大阪府立体育会館で開催され、市内308校の小学校から1,100人が参加し熱戦を繰り広げました。今回は本会総務部地域事業部救護対策室から4名が出向し、救護に当たりました。

わんぱく相撲の初期の会場は各区の消防署で、その後スポーツセンターや小学校で予選を行っていました。そして、平成16年からは大阪市大会となり、中央体育館・京セラドーム・大阪府立体育会館と大きな会場を使用し、延べ10万人を超える児童と26万人を超えるご家族の参加を数えるに至りました。

競技は男女、学年別に行われ、手の豆を潰して救護ブースでテーピングを施した東成区の森



田楽君(8歳 東小橋小)は、3年生男子の部で見事初優勝。帰りに賞状を持参し「先生ありがとうございました。おかげで優勝できました」と笑顔で挨拶に来ました。この一言で、終日の救護活動の疲れが吹っ飛びました。

わんぱく相撲の救護へ参加 —めざすぞ、両国国技館！—

5月19日(日)午前9時から、パナソニックエナジー社体育館で「第7回守口門 真わんぱく相撲大会 守口場所」が開催された。

わんぱく相撲は日本国内200地区の予選大会から勝ち上がり、東京・両国国技館決勝にあたり全国大会が開かれる、小学生対象で最大規模の相撲大会のことである。

守口場所では3土俵で、わんぱく“力士”たちが押し出したり、微妙な判定で物言いがついたり好取組が続く、そのたびに家族や友人から大きな声援や喝采が沸きあがった。

守口支部より2名の会員が救護にあたり、打撲や捻挫などの痛みや不安で泣きじゃくる負傷者に対し、冷静に声をかけて気持ちを落ち着かせ迅速に対応していた。



(広報員 山田 豊)

外反母趾のセルフケア

東京都 久米 信好

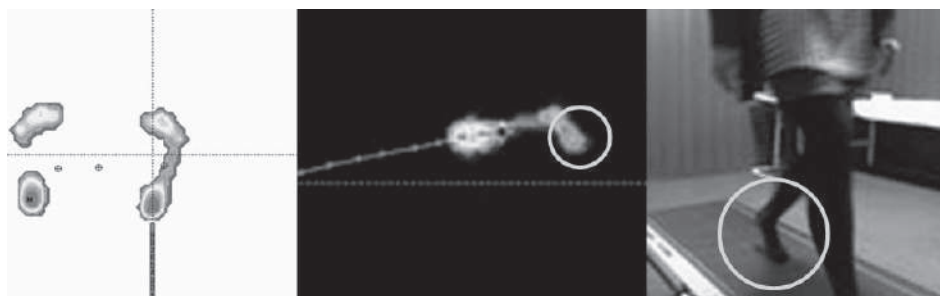
外反母趾とは、足の親指のつけ根の骨が変形し、小指の方へ曲がってしまう症状です。女性の方でお悩みの方が多いのではないかと思います。親指の曲がりが強くなり、指が重なり、出っ張った親指のつけ根が赤く腫れると、歩くことも辛くなります。



外反母趾は足の指のつけ根で作られる横アーチが扁平となり、さらに履物で締めつけると起こります。また、ひどくなると約

8割の方が足の小指が親指の方へ曲がってしまう、内反小趾も合併します。歩き方を観察してみると、足の指を使わずペタペタと歩く女性に多くみられます。足の指を曲げる筋肉の力が弱い女性は、足の指で地面をしっかりと蹴らないため、足の裏にある指を曲げる筋肉や足のつけ根の骨の間にある筋肉が硬くなると、つけ根の関節の動きも悪くなってしまいます。よくハイヒールを履く女性に多いといわれますが、それだけで外反母趾になることはないと思います。また、足の親指が一番長く、小指に向かって足の指が短くなる足の形をエジプト型と呼び、日本人の約7割がこの足であるといわれ、このタイプの方は外反母趾になりやすい足型です。

下の図は、外反母趾の方に足底の圧力を測る器械に乗り、立ってもらったものです。足の指



を使わずに立っているのがわかると思います。また、歩行の最終期には地面を足の親指で蹴ることがとても大切ですが、外反母趾の方は足の親指の付け根に圧力がかかっていないのがわかると思います。

外反母趾には、足の親指の曲がりか靴を脱いでマッサージすれば元に戻る軽い症状の方から、関節の炎症が起こり横アーチを作る靭帯などが硬くなり元には戻らない、最終的には、足の親指が他の指に重なり、親指の関節が脱臼したように見える重い症状の方までいます。

簡単にできる外反母趾の判定として、図のように足の内側に定規などをあて、足の親指のつけ根を中心にした角度を測ってみてください。



9°未満であれば正常、9～16°であれば軽度の外反母趾、16～26°であれば中度の外反母趾、26°以上あったら重度の外反母趾と考えてみてください。

私は外反母趾の相談を受けた際、関節に強い炎症症状を認めないかぎり、自宅でのセルフケアをお勧めしています。しかも、100円ショップで売られているアイテムを使用して患者様から喜ばれています。この方法を試して、3ヶ月以上たっても全く改善が認められなければ、かかりつけの先生にご相談ください。

まず、入浴中に曲がりの悪くなった足のつけ根の関節をご自身の手で曲げ伸ばしをして関節を柔らかくします。次に、つけ根の骨の間にある筋肉を表と裏からマッサージします。入浴後に上の図のようなアイテムを使用して足の指を曲げたり伸ばしたりを、10～30回



行います。大切なことは足の指を曲げるときも伸ばすときも自分でしっかりと意識してゆっくりと行うことです。

外反母趾で足の親指が曲がっている方の親指



をサポートやテーピングなどで、無理に元に戻そうとすると痛みを強く感じてしまうと思います。図のように外反母趾の方の足を内側と外側からつかんでみると、自然と曲がった足の親指が元に戻ります。そこで、100円ショップで売っている伸縮性の包帯を使って、足首の関節の手前から足の指のつけ根をしっかりと包み込むように包帯を巻いて、寝ていただきます。

自宅でできる簡単なセルフケアです。ぜひ、お試しください。

学術・生涯学習講習会開催のお知らせ

公益社団法人日本柔道整復師会「第21回学術・生涯学習講習会」を下記の日程で開催予定です。ご家族やお知り合いの方もお誘いの上、ご参加ください。

日 時：平成25年10月13日(日)午前11時30分開場

会 場：日本柔整会館〒110-0007 東京都台東区上野公園16-9

締 切：9月13日(金) 定 員：100名 入 場：無 料

お申込み：FAX 03-3822-2475

代表者＝氏名・住所・電話番号（会員・会員外）

同伴者＝氏名（会員・会員外）複数連記可

なお、応募者多数の場合は先着順といたします。

当選者には、当会から郵送でお知らせいたします。

公開講座プログラム（プログラム内容は変更する可能性があります）

- ・富山大学寄附講座報告会 講師／西条寿夫 富山大学大学院教授
- ・全国ボランティア活動報告 公益社団法人鹿児島県柔道整復師会
- ・特別講演 講師／山本一義先生 元ロッセオリオンズ監督
演題／「我が野球人生に思う」

申込に関するお問い合わせ

公益社団法人日本柔道整復師会事務局

TEL 03-3821-3511・FAX 03-3822-2475

「目で見える筋肉トレーニングの解剖学」

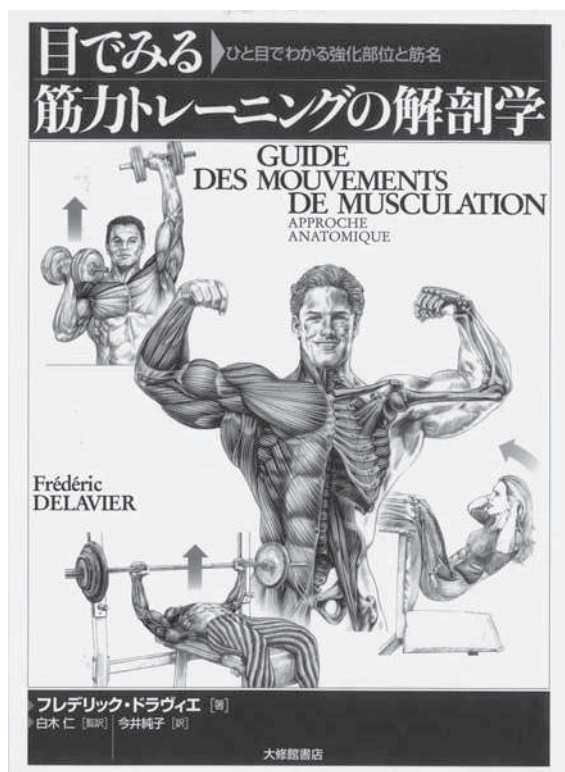
学術部担当理事 寺本 欽弥

我々柔道整復師の専門知識を生かした運動指導やトレーナーとしての役割は非常に高い評価を受けてまいりました。また高齢化社会の介護分野でも柔道整復師の機能回復訓練指導は高評価を受けております。昨年10月に行われました生涯学習講習会では全国的に話題となりました久野信彦先生の開発されたクノボールを用いたトレーニングをご紹介させていただきましたことは記憶に新しいことであります。柔道整復師のニーズは運動機能管理へも広がっていると言えるでしょう。

運動機能の管理を考える上で若い世代から高齢者に至るまで競技力向上に向けたトレーニングや健康づくり、老化防止そして機能回復訓練とさまざまなシチュエーションがありますが「筋肉の強化」は身体づくりの基本であると言えます。

このたびで紹介させていただきます「目で見える筋肉トレーニングの解剖学」はどんな方法で実施すれば効果的に目的の筋肉と動きを強化できるのか書かれた本です。そして、目的に応じて筋力強化したい筋や部位のトレーニングができるように、また周囲の筋の状態もすぐわかるように正確なカラーイラストでそれを図示しています。

対象となるクライアントへの説明にも非常に役立ちますと共に、日々の施術のなかで負傷部位の確認など施術の参考として役立つ書籍でありますのでご紹介させていただきます。



発行所：大修館書店 2,310円

著者名：フレデリック・ドラヴィエ 著

白木 仁 監訳

今井純子 訳

私の夢

「私だからいそできるいよ」



四国医療専門学校 3年 八百原 侑希
や お ほう 原 ゆ う き

私がこの職業に就きたいと思い始めたのは、父が鍼灸師であることがきっかけでした。幼いころから父の働く姿を見ていました。患者さんが治療を受けて帰るころには来院時とは全然違った明るい表情で「ありがとございました」と言い帰って行く。「ああ、スゴイ!!」こんなに人から感謝され、地域にも貢献できる職業に魅力を感じていました。

また柔道整復師という職業を知ったのは、高校時代にスポーツをしていて捻挫をし、接骨院に行ったときが初めてでした。そこでアイシングからテーピングなど治るまでしっかり治療していただき、サポート、アドバイス、その後の様子まで心配してくれたのを覚えています。こんなに近くで初めから終わりまでサポートしてくれる柔道整復師という職業に憧れを抱いたのを覚えています。

柔道整復師は、国家資格を持った骨・関節・

筋肉・靱帯の外傷処置のスペシャリスト！スポーツ分野でも介護福祉分野でも活躍でき、また開業することにより、地域にも貢献できる素晴らしい職業です。なので、私が今まで思い描いていた将来の職業にぴったりでした。私の在籍する四国医療専門学校の教えは、医療は「手当て」です。医療の技術と温かなハートをもった医療人を育成するということで、座学は臨床経験豊富な先生方によりさまざまな方向から疾患に対しての勉強ができ、また柔道を通して人間性を高めることができるのもこの学校の魅力の一つです。

クラスメイトは、新卒者から50代まで幅広い年齢層の人に囲まれ、社会経験豊富な人たちがいろいろな人生経験の話を聞くことができ、私にとって大変刺激的で楽しく充実した学校生活を送っています。テスト期間などは、仲間と切磋琢磨し互いに高め合い、時には助け合

うことの大切さや努力することの必要性を学びました。今では、なんでも相談できる仲間ができたことが私のなよりの宝物です。

今までは柔道整復師といえば男性というイメージで、学校でも男性の方がほとんどで女性はいくなく入学当時は私にできるのか不安でした。でも実際は、接骨院の患者さんは女性の方も多く来院されます。女性特有の悩みなど男性には相談しにくいこともあるはず。そこで女性の柔道整復師だからこそ分かってあげられることもあり、必要なことだと思っています。ほかにも女性の柔道整復師のメリットは、その場の雰囲気を知るくしたり、女性らしい気遣いができるなど治療以外にもたくさんあります。実際クラスの中で、雰囲気を知るくするのが私の役割になっています。その反面、力が弱く頼りなさそうというデメリットもあります。その中で、女性の柔道整復師だからこそできること、私だからこそできることをもっとと探して磨いていきたいと思い、日々心がけています。

現在3年生なので、まず国家試験に合格することが一つの通過点ですが、この四国医療専門学校という恵まれた環境の中で、医療人として多くの経験と知識や技術を高め、地域社会の中で私は何ができるのかを常に考え行動していきたいです。

平成25年度公益社団法人日本柔道整復師会主催学術大会一覧

	担当都道府県	学会名称	講師・演題	開催予定日
九州	(公社) 福岡県柔道整復師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第42回九州学術大会 福岡大会	○ 「柔道で脳を守る」 徳島大学医学部脳神経外科教授 永廣信治先生	7月27日(土) 7月28日(日)
東京	(公社) 東京都柔道接骨師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第32回東京学術大会	◎ 特別講演Ⅰ 「臨床講座」 順天堂大学医学部附属 順天堂 東京江東高齢者医療センター 整形外科科長 岩瀬嘉志先生 ◎ 特別講演Ⅱ 「画像読影法」 サヴァイクリニック院長 田中卓雄先生	9月8日(日)
近畿	(社) 兵庫県柔道整復師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第38回近畿学術大会 兵庫大会	◎ 機能解剖で斬る 運動器疾患 ー解剖所見と画像所見による骨折・脱臼、軟部損傷のメカニズムー	10月27日(日)
大阪	(公社) 大阪府柔道整復師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第7回大阪学術大会		11月10日(日)
東海	(社) 三重県柔道整復師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第48回東海学術大会 三重大会	○ 「夢を追いかけて」 シドニーオリンピック・シンクロ ナイズドスイミング銀メダリスト 武田美保先生	11月17日(日)
関東	(公社) 山梨県整骨師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第36回関東学術大会 山梨大会		平成26年 3月9日(日)

◎印の学術大会は、どなたでも無料でご参加いただけます。
○印は、特別講演のみどなたでも無料でご参加いただけます。

訂正とお詫び

前号、日整はつらつ！VOL.11号 38頁に誤りがございました。ここに訂正してお詫び申し上げます。

誤) シドニーオリンピック・シンクロナイズドスイミング金メダリスト

正) シドニーオリンピック・シンクロナイズドスイミング銀メダリスト



〈表紙解説〉

桑の川の鳥居杉

(一社)高知県柔道整復師会

橋詰 晟

私の住む高知県南国市の山間に、地元では有名な鳥居杉があります。

桑の川地主神社の参道にある2本の杉は地上10mのところまで連結して鳥居のように見えます。

樹齢300年以上の太木で、古来より、地元住民の方々の信仰対象として、大切にされてきました。

いっただよものように結び合って鳥居の形になったかは定かではありませんが、結びあう形から、縁結びにご利益があるとのこと訪れる人が増えています。

「輝ける未来への取り組み」を終えて

広報部長◆永田官久

日整はつらつ！VOL.2（平成23年11月号）から、「輝ける未来への取り組み」を共通のテーマとして、各ブロックから各都道府県の組織強化・地域支援事業・公益社団法人移行への対応、また国民の健康維持増進につながるような公益活動や会員の有益になる事業等の活動を中心にその取り組み方などについて原稿をお寄せいただきました。この7月に発刊したVOL.12を以て全11ブロックの報告が終了いたしました。

2年間にわたり担当していただいたブロックの広報部長さんをはじめ、ご協力いただいた各都道府県の皆様に厚くお礼を申し上げます。

今回は、本会が公益社団法人に移行後、分冊となり日整広報から一般の方もご覧になれる日整はつらつ！の方に掲載させていただきました。日整はつらつ！は、日整のホームページで一般公開されているほか、待合室や公共の施設などでどなたでも閲覧可能になったため多くの方にご覧になっていただきました。

報告の内容としまして、公益社団法人移行への対応、災害・救護ボランティア活動、スポーツケア活動、介護予防事業関連活動、中学校の武道必修化に対する対応、組織強化、柔道整復師のPR活動などの記事が見られました。なかでも日本赤十字社と連携した赤十字奉仕団の活動が多くありました。

この2年間で多くの都道府県が公益社団法人を取得し、「輝ける未来」へ向かって取り組んでいた事業が大変な努力により実を結んだことは日整会員に大きな希望をもたらしました。

日整はつらつ！は、全国社団並びに会員の交流の場、情報交換の場であるとともに、一般の方々に柔道整復師の活動を知っていただく場でもありますので、掲載された活動がお互いに参考となり各都道府県に広がって日々の発展に繋がり、柔道整復師がより国民の健康維持増進に貢献できれば編集者としても冥利に尽きます。

新たな通巻テーマや内容は、ブロック広報部長、全国の広報担当者のご意見を伺いながら新広報部員で検討中です。

今後ともご協力賜りますようよろしくお願いいたします。

◆原稿締切日は奇数月20日です◆

〈投稿される会員へお願い〉

ワードまたは一太郎などで作成された原稿の場合は、そのファイルをメールでご送付ください。

★編集会議の結果、投稿の内容により未掲載となる場合もありますのでご了承ください。また「投稿」の場合、必ず日整広報原稿と記入または入力してください。

★投稿文は各都道府県事務所を通して応募ください。

★原稿・投稿者名にはふりがなをお願いします。

宛先：“日整広報” <kouhou@shadan-nissei.or.jp>

日整はつらつ！発行日と原稿締切

※原稿の締切厳守をお願いします。（広報部）

号 数	13号	14号	15号	16号	17号	18号
原稿締切	7月20日	9月20日	11月20日	平成26年 1月20日	3月20日	5月20日
発 行	9月20日	11月20日	平成26年 1月20日	3月20日	5月20日	7月20日

日 整 文 芸

(作品は1人3首〈句〉までといたします)

【短 歌】

回想

山梨県 明風 散人

歳晩の骨董市に遊び来て
あれこれ迷ふことも愉しゑ

一徹の吾に連れ添ひ六十年
妻の白髪しみじみと見る

妻の古稀祝いてくるる門下生
あまた集ひぬ沙羅の咲く下

季歩

奈良県 長谷川 浩行

高台こうだいに登りて眺む名峰めいほうの
自然の季節心癒する

春ぬるむ土堤どてに植えたるゝアヤメには
つぼみつけしや日に色添えし

春たちぬ尾瀬の湿地に清楚にや
白き姿を季節は与う

福岡県 山下 智章

ちはやふる杜守りし大木に
無用の用を問うて眺むる

【俳 句】

富倉峠

群馬県 鈴木 乗風

富倉のみどり透く嶺ねに吹流し
幾曲ろくがる山麓ろくの新樹や萱の家
崖をぬふ端枝溢るる国境

花辛夷

福井県 田上 滋良

紅梅や引越しの荷の新しき
妻がいて子がいる暮し春の月
潔白というふくらみや花辛夷

香川県 伊勢 豊郎(豊生)

神だなに父のかたみの白いふじ
ちちちとつばめかえりて巢の修理
ベランダに父の想い出ふじみだれ

【川 柳】

北海道 阿部 篤夫

研修後夜のすすきの午前さま
八ツ時やどきか皆んなで食味蕎麦旨し
五月空総会終るリラの街

石川県 東 勝一

広漠の地に立ち竦む屋台村
魚市場鷗の声で支援する
幼な児の石投げ姿勢浄土ヶ浜

「日整文芸欄では一般の方々からの投稿を募集しております」

広 報 部

日整文芸は、会員の方に加え、一般の方々からも「短歌」「俳句」「川柳」を募集します。一般の方の投稿は、日本柔道整復師会会員を通じて、都道府県名、紹介会員名および連絡先、作品提出者名を明記の上、ご応募してください。

日整文芸を通じて読者の皆様とよい交流の場となればと願っております。

作品は会員と同じく1人3首〈句〉までといたします。多くのご応募をお待ちしております。

宛 先 〒110-0007 東京都台東区上野公園16番9号
公益社団法人 日本柔道整復師会広報部
TEL : 03-3821-3511 FAX : 03-3822-2475
E-mail : kouhou@shadan-nissei.or.jp

編集後記

■私は新幹線に乗るときC席を指定している。出入りする場合隣席に迷惑かけないし、隣席(B)席が空くことが多い。私がC席に先に座っているとき、「奥、空いていますか」と、声を掛けるでもなく、無言のまま膝を押しよけるよう入ってくる。また、通路へ出るときも「すみません」の一言ない言葉足らずの若者がいる。ある大企業では、始業はパソコンを開くことに始まり、何の対話もないと聞いたこともある。

世の中、こんなことでいいだろうか。時代の流れとは言え、先行き心配だ。そんな中、柔道整復師の中には、声を掛け過ぎて嫌われている先生もいるようだ。これまたご用心。

(多毛家)

■『十八歳からの十年介護』と題した東京都の市民公開講座の記事の中で、決して楽とは言えない介護環境の中でも常に前向きにご自身が過ごされたことを「介護と医療の伝え手」として参加者に語り掛けられた記事を読んでハッとさせられた。私の母親はすでに他界しているが、介護の必要な父親がおり結構大変だ。

今年度最初の日整学術大会で、「機能訓練指導員として現場ですぐに実践できる運動実技を含めた必要な Skill」と題した日整保険部介護対策課の「介護セミナー」があった。Skillが高められ取り組んでいる地域支援事業がますます盛んになり介護予防に寄与することを願う。

(家真舵)

■昔の警察官は「おい、こら」と上からの目線で威嚇する怖いイメージだったけれど、今回、DJポリスとして有名になったおまわりさんはやさしい口調で親しみをこめて群衆の誘導にあたった。「日本代表のユニホームを着ている皆さんは12番目の選手です」・「おまわりさんも日本が勝って大変うれしいです」・「そういう行動はイエローカードです」とユーモアを交えての注意で、事故や逮捕者を出さないことに貢献し、同僚の女性隊員と共に警視総監賞までいただいた。我われも人を動かす話術を見習い、患者さんとの対話は、上から目線でなく、親切丁寧で

的確なアドバイスができるように努力したい。

(魅家下)

■柔整サロンで愛媛大学医学部附属病院総合診療サポートセンター櫃本先生談の中で、「柔道整復師に期待することは、地域の住民を支えるのに、かかりつけ医同様、地域住民のかかりつけの相談者として大きな力があると思います」「してあげる医療から、求められる医療へ」私は、2年後町内自治会の会長をやることが決まっているため、自分の中で「町内会長とは」と考えていたとき、櫃本先生の談を読んで一つヒントをもらえたと思った。仕事は柔道整復師であるため、これを活かして住民のためになることを考えていけば何とかなるかな？そんなに甘くないとは思っていますが。

(和座尾)

■公益社団法人日本柔道整復師会(以下、日整)は、今期から工藤新体制になりました。私は茂住体制下、萩原体制下で広報部員としてお世話になり、今期で6期目を迎えますが、マンネリ化せぬよう自戒しながら編集作業に取り組む所存です。長年にわたり部員を務め、ご指導をいただいた写真の達人・深江一先生が辞され、一抹の寂しさを感じます。達人は編集写真の仕分け整理名人でもありました。日整代議員会、全国会長会、日整通常総会、接骨医学会学術大会などの取材を深江先生と連携させていただき、記事もそれなりに仕上がりました。ここに改めて深甚なる敬意と感謝を申し上げます。そして、日整広報部に携われた先輩諸兄に倣って、現スタッフ一同常に連携し、大局的見知から捉えた広報誌づくりに努めてまいります。引き続きご叱正を賜りますようお願い申し上げます。

さて、一般向けの健康情報誌「日整はつらつ!」は今号で12号となりました。これまで各地で開催された健康講座・講演を掲載しています。人は誰でも“心身ともに健康で長生きしたい”と望むものです。患者さんに読んでもらいたいと思われる健康にかかわる記事は、コピーをして待合室に置いていただければ、健康情報誌としての役目を果たせるものと思います。

(多夢楽)

「日整はつらつ!」VOL. 12 JULY 2013

平成25年7月20日発行

公益社団法人 日本柔道整復師会

〒110-0007 東京都台東区上野公園16-9

電話 (03)3821-3511 (大代表)

発行人 工藤鉄男

編集者 永田官久

制作・印刷所 東京リスマチック株式会社



柔道整復師倫理綱領

国民医療の一端として柔道整復術は、国民大衆に広く受け入れられ、民族医学として伝承してきたところであるが、限らない未来へ連綿として更に継承発展すべく、倫理綱領を定めるものとする。ここに柔道整復師は、その名譽を重んじ、倫理綱領の崇高な理念と、目的達成に全力を傾注することを誓つものである。

- 1、柔道整復師の職務に誇りと責任をもち、仁慈の心を以て人類への奉仕に生涯を貫く。
- 2、日本古来の柔道精神を涵養し、国民の規範となるべく人格の陶冶に努める。
- 3、相互に尊敬と協力を努め、分をわきまえ法を守り、業務を遂行する。
- 4、学問を尊重し技術の向上に努めると共に、患者に対して常に真摯な態度と誠意を以て接する。
- 5、業務上知りえた秘密を厳守すると共に、人種、信条、性別、社会的地位などにかかわらず患者の回復に全力を尽す。